

第2回講座レポート

西田 和伸

第一部の藤原勉本巢市長の「地方行政をとりまく現状と課題」の講義では、市・町・村議員、首長は毎日が地域住民と顔を合わせる現場第一の仕事であることや、毎年職員がうつ病を発症するような非常に大きなストレスがかかる職業であることを教えていただきました。財源が補助金から交付税主体になってきたことにより、地方の自由度が増してきたことでそれぞれの地域の独自性が出てきた点や、身の丈に合った財政運営を心掛け、今までのような行政サービスは持続不可能であることから、今後は住民同士の助け合いが重要であることも勉強になりました。

第二部の上手繁雄前岐阜県副知事による「人口減少時代の地方の課題」についての講義は、義務教育よりも公立高校の教育の見直しや、伝統的なモノが若者を遠ざける点など、なるほどと思えるとても面白い内容であったと思います。道州制・市町村合併は心情的な部分もありこれ以上の進展は現実的ではないことや、都道府県が市町村の補充・支援に進出している点等々課題が山積であると改めて認識させていただきました。